

令和５年度第１回箕面市子ども・子育て会議 議事概要

◆日時：令和６年（２０２４年）１月１２日（金）１４：００～１５：４５

◆場所：箕面市役所本館３階委員会室

◆出席者：

【委員】

馬場会長、澤田委員、北本委員、西野委員、太田委員、井上委員、中村委員、
川崎委員、阿部委員、藤岡委員
（欠席）山中委員、宗形委員

【事務局】

藤村副教育長、今中担当部長、藪本副部長、村田担当副部長、山田担当副部長
金城学校教育監、乾室長、山根室長、福田室長、片山センター長、鉾之原室長
六島室長、今峰室長、三島室長、高取室長、小木曾室長、大迫館長、竹内室長補佐、谷邊

◆議事内容

１．開会

２．案件

（１）箕面市子ども・子育て会議について

- ①箕面市子ども・子育て会議の概要について
- ②青少年健全育成部会からの報告について

（事務局）

- （資料１-１に基づいて、箕面市子ども・子育て会議に関する全般的事項について説明）

（西野委員）

- （資料１-２に基づいて、青少年健全育成部会の開催結果について報告）

（質疑なし）

(2) 第四次箕面市子どもプランについて

- ①第四次箕面市子どもプランの概要について
- ②第四次箕面市子どもプランの進捗状況について
- ③子ども・子育て支援事業計画の見直しについて

(事務局)

- (資料 2-1～2-4 に基づいて、第四次箕面市子どもプランの概要、進捗状況及び子ども・子育て支援事業部分の見直しについて説明)

(北本委員)

- 箕面子育て応援ブックについて、資料中には全 7 冊あるとこちらに書いてあるが、私は箕面市の西小学校区に住んでおり、老人の方も多いので、孫を預かる際に、昔と今の子育ての違いを簡単にまとめた冊子などがあると、親子の間の子育てに対する喧嘩とかも減るのではないかなと思う。
- 今、孫を預かると、昔と子育てのやり方が全く違うので、私達が見てもすぐわかるような比較の冊子などがあったらいいなと思う。

(西野委員)

- 子育てというのは、親御さんだけではなく、昔からであれば、おじいちゃん世代があって、3 世代があって初めて子育てというのがあるのかなと思う。
- ただ、今の親御さんたちは非常に忙しい。青少年を守る会の立場から言うと、みんなが住みやすいまちというのは、家庭内での世代間の交流状況に関すること、揉め事も多分あるかなと思うが、そういった子育てに関する話を相談できる相手が学校だけではなく、ママ友や PTA、地域のお隣さんなどに広がっており、様々な「味方」が親御さんの周りにいる、そういうまちなのかなというのが少し思いとしてある。
- 家庭が地域活動に協力できる、あるいは地域活動が家庭の支援になるような声かけができればいいなと考えたりしてるところなので、そういった面で箕面市から支援などがあったら嬉しいなというのは私達の思いである。

(澤田委員)

- コロナ禍でかなり家庭の中で過ごす時間が長くなって、家庭内での虐待の問題とかがかなり日本全国で問題になっていたかなと思う。
- 今回の要保護児童対策協議会の機能の強化というところで、コロナ禍でのそういった問題というのは、箕面市の方ではどうだったのか、振り返りのご報告がもしいただけるのであれば教えていただきたい。

(事務局：片山センター長)

- コロナ禍においての虐待の案件がどうだったのかについて、令和2年度については一番コロナがピークを迎えており、そのときにはコロナの影響による虐待事案としては約60件あった。具体的には、在宅ワークが増えたことにより家庭内で面前DVが発生したり、失業等により経済的な困窮が背景にある事案をカウントしている。
- 令和3年度については、60件よりも減っており、10件台だった。

(馬場会長)

- 先ほど、資料2-3をもとに様々な必要量と実績をご報告いただいたが、その中で乳児家庭全戸訪問に関しては、乳児の数がわかっていて、そこに全てを訪問したいということで必要量と実績数が確認できるというのはよくわかる。
- それ以外のところで、例えばファミリー・サポート・センター、あるいは病児保育、それ以外のものでも必要量と実績値が同じ数になっているものがいくつかあったかと思う。
- どのような形で当初計画値と必要量と実績値というものが計算されて、過不足なく提供できているという話になっているのかをご説明いただきたい。
- 例えば、病児保育に関しては、箕面市の場合はわからないが、本当は預けたいが預けられないというようなことをよく聞くので、その辺も少しご説明いただきたい。

(事務局：村田担当副部長)

- 病児保育でいくと、当初計画の値というのは、ニーズ調査の中で病児保育を何かあったら使いたいかという設問で回答された希望をそのまま人口に当てはめたような形で出した値である。
- 実績値というのは、使いたいけどやっぱり使わなかった数としては正直出てこないところがあり、実際に申し込みがあって利用された数と同じ数値しか出せなかったというのが実態である。
- ちょうどこの令和2年度から令和5年度、令和5年度は見込みだが、コロナの時期と重なっており、発熱等の場合、特に病後児はすぐ預けられず、何日か経ってからなど制限がいろいろあった。
- 結果として、預けたかったけど預けられなかったというのが本当は水面下でいっぱいあったと思うが、利用条件に当てはまらないから申し込みをしていないということで、こちらでカウントされてない状況になってしまっている。
- 特に今回、病後児の数がすごく少ないのがこの数年続いているが、コロナが収束し、5類に移行したので徐々に利用者数が回復してくるかなとは考えている。

（事務局：山根室長）

- ファミリー・サポート・センターについても、病児保育の話と同じで、ニーズ調査によって、必要量の見込みを出したうえで、過去の実績から伸び率を考えて当初計画値を算定している。
- 実際の必要量と実績値というのは、実際に利用したい方に対して必要なだけ提供させていただいたということで、実績値と必要量がイコールになっている。

（中村委員）

- 公立保育所の保護者の立場ではあるが、普段は学齢期の子どもや市内の若者たちと関わる機会がある。資料 2-2 の 7 ページの健全育成と自立支援のところについて、このプランの対象が 0 歳から 18 歳ということで、特に子育て支援であったり保育所であったり、病児保育などのところは充実しているが、やはり中学校を卒業した後の子どもたちの見守りや相談体制の部分について、なかなか箕面市は支援が薄いのではないかなと思っている。
- そのあたりの福祉部署との連携みたいなものについて、具体的にどのようなことがされているのか教えてほしい。

（事務局：金城学校教育監）

- 福祉部署との連携の前に、まず若者支援の部分についてだが、当然これまでも各担当部署において若者の貧困に関する取り組みなど、それぞれにやってきてはいる。
- ただご質問のとおり、若者という対象に絞ってその相談対応をする部署がないのではないかというのは課題として認識している。
- 現状進めているのが、重層的支援事業という新たな事業で、今お話があったように福祉部局と教育関係部局と連携をして、そういった様々な相談対応支援についてスムーズに行っていこうという新たな取り組みである。
- 市として、今まさに福祉部局と教育部局がともに、そういった相談対応をどのように進めていくか、役割分担や、改めて支援が重なるところを含めて、取りこぼしがないようにどう進めていくかというところで検討を進めており、定期的に会議をしているところである。

（事務局：山田担当副部長）

- 先ほど祖父母世代とのギャップを埋めていくというご意見をいただいた件について、母子保健事業の立場ではあるが、3 世代で住んでいる家庭や、離れていても親御さんが忙しいので協力してもらっているような様々な家庭がある中で、妊娠届け出時や乳幼児健診時にヒアリングを行い、内容を簡単にまとめた冊子を渡している。

- また、保健師や助産師からアドバイスをすることで、母子保健の立場からできる取り組みを今年度から開始している。また経過などがご報告できればと思っている。
- 先ほど、どんどん地域に繋がったりとか、家庭から園へ、あるいは園から地域へというようなご意見等もあり、様々なところでの取り組みが必要かとは思っているが、一旦はその母子保健の立場では開始しているという説明だけさせていただく。

(西野委員)

- 中学校を卒業した後、いわゆる思春期にかかる子どもたちのフォローはどうかという話だったが、青少年を守る会も小学校卒業までの子どもたちを中心に見据えているという流れの中で、やはり私達としては、子どもは大人の背中を見て育つということが一番にある。
- 大人たちが安心できる生活環境というのは、子育てプランの中で当然必要であり、少しおこがましい言い方にはなるが、子どもたちが健全に育ち、それぞれの個性を発揮しながら生活していくには、やはり大人の背中、親御さんの背中、教師の背中あるいは地域連携・地域活動のあり方の中で大人の背中を見る、箕面ではオアシス運動などで、そういったことを通じて、やはり、思春期の子どもはどうしても大人と話するとき斜に構えて、話を聞かなくなってくると、私達も経験があるが、そういった子たちをしっかりと見守って、勉強に専念させる、あるいは、社会教育とか社会活動に興味を向けてもらい、健全に育ってもらうということを考えていくのは大事なことです。
- そのために市の方で、大人が安心して過ごせる生活環境づくりとサポート体制というのを充実してもらう中で、向こう3軒両隣の地域環境というのが一番やはり子育てで大きいのかなと。先ほど北本委員がおっしゃっていた、おじいちゃんおばあちゃんと育てる世帯も多いということも含めて、やはり今、求められている地域の子育てというのは、そういった大人の環境作りが一番大きいのかなというのは少し身近に感じているところ。

(3) 第五次箕面市子どもプランの策定について

- ①第五次箕面市子どもプランの策定について
- ②箕面市子ども・子育て支援事業ニーズ調査について

(事務局)

- (資料3-1~3-4に基づいて、第五次箕面市子どもプランの策定体制、ニーズ調査の概要について説明)

（馬場会長）

- 今、アンケート調査の具体的な質問用紙をいただいているが、この中身について今ここで議論や質問等はできるのか。

（事務局：山根室長）

- 質問していただいて問題ない。

（中村委員）

- 実態把握ということで、せっかくなら就学前と小学生だけではなく、中学生、高校年代の子たちの実態がどうなっているのかを把握するための調査項目をいくつか入れられないかなと思った。

（事務局：山根室長）

- 就学前児童と就学児童のアンケートについては、国からの指針等といったものがあり、それに基づいて実施させていただいている。
- 今後にはなと思うが、次回以降に反映できるかについて検討していきたい。

（阿部委員）

- 2,000名ずつアンケートを配るということだが、結構ボリュームがあると思う。実際に返ってくるのはどのくらいなのか。

（事務局：山根室長）

- 前回の調査の結果でいうと、前回も同じく就学前児童2,000名、就学児童2,000名の計4,000名に発送しており、郵送のみであったが、就学前児童は1,197人、回収率として59.8%。就学児童は1,265人、回収率として63.3%とかなりの割合で回答をいただいた状況。
- 今回は、回答期間も少し長めに取り、二次元コードによるネットでの回答も含めて、さらなる回収率アップに取り組みたい。

（４）その他

①市内における幼児教育・保育施設の設置について

（事務局）

- （資料４に基づいて、今後の保育施設の開設予定について説明）

（中村委員）

- お話いただいた桜ヶ丘に新しく民間の認定こども園ができることに関して、元々箕面市として進めようとしている西側での公立の認定こども園の計画は、何かそれを受けて変更があるのか。同じエリアにこども園が二つできることになるのかも含めて、そのあたりどのような協議がされているのか教えていただきたい。

（事務局：村田担当副部長）

- 箕面市で進めている西部地域の公立認定こども園の計画は、桜ヶ丘保育所とせいなん幼稚園の再編の話で、令和9年度開園に向けて進めている。
- その話が、今回出てきた民間の桜ヶ丘幼稚園の休園に伴う新しい認定こども園の話と関係があるのかなのかということだが、基本的には影響せず、それぞれ別の話として考えている。
- 公立の幼稚園・保育園の再編という話が、私立幼稚園の閉園や、閉園に伴って新しい認定こども園を作るという私立・民間の計画の話とは直接影響しないと思っていただいて大丈夫かと思う。

（事務局：今中担当部長）

- 補足になるが、公立の幼保の再編については、今後の就学前の児童数や、保護者の利用ニーズなどをしっかりと見極めて、その上で令和9年度に向けてどのようにしていくかというところをしっかりと見ていかないといけないと考えている。
- 令和9年度に向けて、アウトソーシング計画の中で位置付けられてはいるが、説明させていただいた認定こども園をどうするかも含めて、令和9年度の公立の幼保の再編に向けて、全く影響がないかどうか、その辺も含めて見極めが必要かなと考えている。

（中村委員）

- かやのこども園の話し合いを担当室とずっとさせてもらって、保護者の意見もかなりバラバラな中取りまとめているが、やはり一つ大きい意見は0歳から2歳の子たちと3歳から5歳の子たちの迎えに行く先が違うということ。
- 片方の子を迎えに行ったら、もう片方の子を迎えに行った時間はそれ以上追加料金がかからないなどいろいろ配慮してもらってはいるが、やはりアウトソーシング計画含めて子育ての環境を良くしていくということで進んでいると言いつつ、実態としては不便になってしまった保護者の人たちが一定数いるというのは、今後西と東の地域でこども園の整備を進める話をする上で、頭の片隅に置いていただけたらなと思う。
- 定員の話に関しても、周りで子育てをしている保護者の声を聞くと、「入れなかった」「保育所になかなか入れない」「下の子は入れない」という声は、一定聞こえてくる。

- 定員数として、多分数値はニーズに対して上回っていると思うが、近くじゃないと嫌とか、そういった保護者側のわがままもあるかもしれないが、ニーズに必ずしも数字が追いついてるからといって全てのニーズを拾っているわけではないことはやはり大きいと思っているので、今後ぜひ検討していただきたい。

（井上委員）

- ファミリー・サポート・センターの登録人数について、今後ニーズも高まっていくと思うが、必要なときに気軽に使えるようにしていただきたい。
- 現状を把握したいので、何名が登録していて、実際稼働しているのは何名くらいか、また、森町地区のみの分も教えていただくことはできるか。

（事務局：山根室長）

- 依頼会員、援助会員、両方会員の3種類があり、令和5年3月末時点で依頼会員は1,120人、援助会員が474人で、両方会員は134人、会員の総数としては1,728人。
- 地域ごとの登録人数は現状把握しておらず、調べてみないと分からない。

（井上委員）

- おおまかな人数を把握したいので確認をお願いしたい。

（馬場会長）

- 令和5年11月までの数値が資料2-3に入っているかと思う。依頼会員で1,197人、援助会員480人、両方会員137人、会員の総数として1,814人なので、令和4年度よりも令和5年度の方が人数的には増えたという理解でよいか。

（事務局：山根室長）

- その理解で問題ない。

（馬場会長）

- 確かに全体として人数はいるが、市内でも東と西でかなり分かれているし、箕面森町地域だけに限ったら、例えば依頼会員はすごく多いが援助会員が少ないとか、そういったこともあるかもしれない。

3. その他

（今後のスケジュール等を事務局より説明）

4. 閉会